



Title	札幌の文化遺産をめぐって : hiragishi heritage trail
Author(s)	門脇, こずえ
Citation	先住民文化遺産とツーリズム : 北海道の可能性(International Symposium: Indigenous Heritage and Tourism – Potential in Hokkaido). 2012年10月13日-14日. 北海道大学学術交流会館小講堂, 札幌市.
Issue Date	2012-10-14
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/51250
Type	conference presentation
Note	セッション2: ヘリテージツーリズムの取組み
File Information	session2report1.pdf



[Instructions for use](#)

International symposium 2012 Indigenous Cultural Heritage and Tourism

国際シンポジウム
先住民文化遺産とツーリズム
-北海道の可能性-

『札幌の文化遺産をめぐって～ hiragishi heritage trail ～』

門脇 こそえ

((社)北海道アイヌ協会札幌支部国際人権部長)

1、 平岸トレイルを構築した経緯

アイヌ文化という思い出す地域は白老・旭川・平取・阿寒とありますが、実はもっと身近な所にアイヌ文化は存在し、私達が普段何気なく通り過ぎている所を少し立ち止まり、視点を変え周りを見渡すと様々な歴史を感じることに気づかされます。

そんな中ワーキンググループのメンバーや学生の皆様と構築したのが、このトレイルになります。アイヌ文化のみならず、札幌の歴史や文化も同時に感じる事できるそんなトレイルになっています。想像力を働かせながら行ってみると、楽しいのではないのでしょうか？

2、 トレイル紹介

平岸高台公園→平岸小学校→精進川・河畔公園→天神山緑地・天神山チャシ跡→相馬神社
→

平岸天満宮→郷土史料館(→中の島神社：今後プラスしたい箇所)

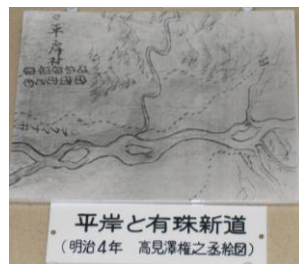
3、 主なスポット紹介：精進川・河畔公園



精進川は南区と豊平区を流れる全長 13.2 キロの川で、明治中期から定山溪鉄道が開通するまで、木材の搬送に利用されてきた大きな川でした。定山溪で切り出された丸太を豊平川に流し、中の島 1 条 11 丁目付近で精進川に送り、中の島 1 条 1 丁目付近で引き揚げ馬車で札幌に運びました。また精進川と豊平川は、昭和 7 年に豊平川との合流部分がせき止められ、現在の姿になりました。精進川は先ほど述べたように、豊平川の支流でした。「中の島」は豊平川と支流に囲まれた大きな中島でその支流に現在の中の島神社から豊中公園にかけて 5 つのきれいな池がありました。厚く張った氷は馬車で札幌の中心部に運ばれ、冬のリンゴ農家の貴重な収入源となっていたようです。この河畔公園にある氷池は、かつて氷を切り出した池を地

域の人々の要望で再現したものです。平岸との境である平岸1条17丁目には、「精進川の滝」があり、そこから下流に沿って精進河畔公園が広がっています。平岸の河岸段丘は、西野集魂岩層によって形成されました。またオオウバユリなどアイヌ文化と関係のある様々な植物がこの遊歩道沿いには見られ、四季折々の景観を楽しむことができます。

4、主なスポット紹介：天神山緑地・天神山チャシ跡・相馬神社・郷土史料館



天神山チャシ跡・・・現在付近の地平線からわずか27メートルの高さにあります。「チャシ」とは自然の丘陵に少し手を加えた「とりで」の意味で、西と北は地平に面し東はくぼみを隔てて次の丘に対し、南の一方は相馬神社の丘に続きます。

■T71 遺跡・・・天神山丘陵の西端に位置する約5千年前の縄文文化中期頃の旧跡竪穴住居跡や土器が発見されています。

■相馬神社・・・明治4年3月岩手県水沢の旧藩士を主体とする65戸203人の入植者が、現在地(平岸天神山)を神社予定地としてその筋の貸付を受け札幌神社の遥拝所として祭事を執行。明治35年1月福島県相馬郡鎮守相馬太田神社の崇敬者が、御分霊を奉遷し、札幌郡豊平町5番地に仮神殿を設け奉斎す。大正5年に現在地の平岸天神山に神社を移転。

■郷土史料館・・・平岸地区は明治4年に岩手県から開拓移民が入植し開拓されたところです。この年から数えて110年目にあたる昭和57年に史料館が開館しました。ここには東山平岸坊主山遺跡から発掘された土器や石器・リンゴ栽培の農機具等の展示物435点を収蔵しています。リンゴの産地として名をはせたところで、当時の様子がわかる展示物が魅力のひとつです。

5、主なスポット紹介：中の島神社

中の島神社は、土地の幸せを護る神様や商売繁盛の神様、水の神様など様々な神様が祀られています。神殿の前に巨木が2本並んでいて、樹齢200年を超えるハルニシの木です。この御神木には地の神が宿していると言われ、この木に触れると足腰の疲れや肩こりなどの健康回復に良いと言われています。またハルニシの木はアイヌ民族にとってとても縁のある木になります。なぜこの木なのか想像力を働かせながら調べてみると、ひょっとしたら面白い発見があるかもしれません！

6、主なアイヌ語地名

中の島神社は、土地の幸せを護る神様や商売繁盛の神様、水の神様など様々な神様が祀られています。神殿の前に巨木が2本並んでいて、樹齢200年を超えるハルニシの木です。

- ・ピラ=崖 ケシ=尻 イ=処
- ・オ=川尻 ソ=滝 ウシ=処
- ・トゥイ=切れる 裂ける くずれる ビラ=崖

西蝦夷地石狩場所では、「トエヒラ」になっている。言葉としてはトゥイビラが和人に言い伝えられた後、「イ」が「エ」になったのでは？

そのほか札幌市内には、様々なアイヌ語由来の河川・植物・地名が残っています。

7、ガイドブック等の利活用

現在札幌市や地域ごとにワーキングマップ等の冊子が数多くあります。それを利活用する事で充実した内容を提供できると考えております。また今後ワーキング内でも現在ある最新技術等を活用し、札幌に住んでいない方にも情報発信できるように努めたいと思います。

※出典記載のない写真は報告者撮影。